

岩手山

概況

火山活動に変化はなく静穏に経過しました。

・噴煙活動（図2）

遠望観測（監視カメラ：黒倉山山頂から北へ約8km）では、黒倉山山頂の噴気の高さは、70m以下で低調な状態が続いています。

・熱活動（図3）

12月6日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力により上空からの観測を行いました。その結果、噴気地熱地帯に変化はなく、低調な状態が続いていることを確認しました。

・地震活動（図4～図6）

火山性地震は53回観測されました（11月48回）が、岩手山山体の浅い地震の回数は少ない状態が続いています。

火山性微動は観測されませんでした。

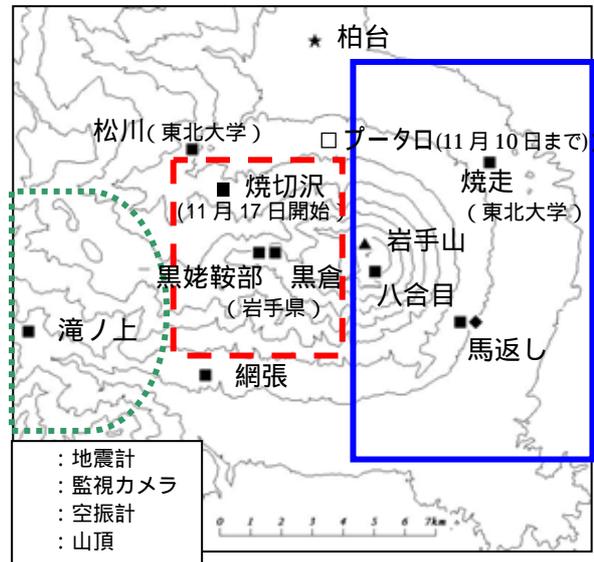


図1 岩手山火山観測点配置図

東岩手山（岩手山東側～山頂、鬼ヶ城付近）

西岩手山（大地獄谷～黒倉・姥倉・犬倉山）

岩手山西側（小松倉～三ツ石山、滝ノ上付近）

東岩手山（岩手山東側～山頂、鬼ヶ城付近）

山頂東側の海面下10km前後が震源と思われる低周波地震は4回（11月8回）観測され、そのうち、震源が精度良く求まる地震が2回ありました。

また、浅い所を震源とする高周波地震は、少ない状態が続いています。

西岩手山（大地獄谷～黒倉・姥倉・犬倉山）

火山性地震は少ない状態が続いています。

岩手山西側（小松倉～三ツ石山、滝ノ上付近）

1998年に岩手山の火山活動が活発化する以前から地震活動のある滝ノ上付近では、規模の小さな地震が数十回発生しています。震源などこれまでと大きな変化はなく、地震活動は低調な状態が続いています。

注)プータロ地震計は焼切沢(やききりさわ)へ移設(11月17日より観測開始)

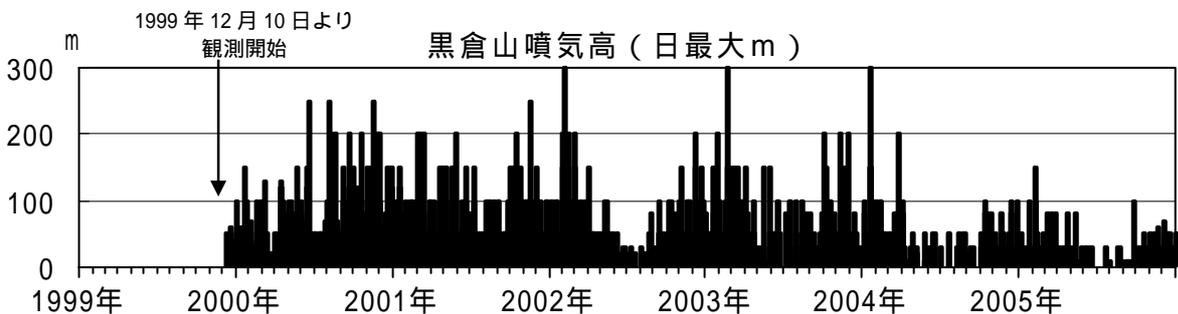


図2 岩手山の日最大噴気の高さ（黒倉山）

(1999年12月10日～2005年12月)

気象台の柏台監視カメラは1999年12月10日より観測開始。

資料は気象庁のデータその他、東北大学のデータを利用して作成。

上空からの観測結果（平成17年12月6日 陸上自衛隊東北方面總監部の協力により実施）

山頂付近 - 雲に覆われていたため観測できませんでした。

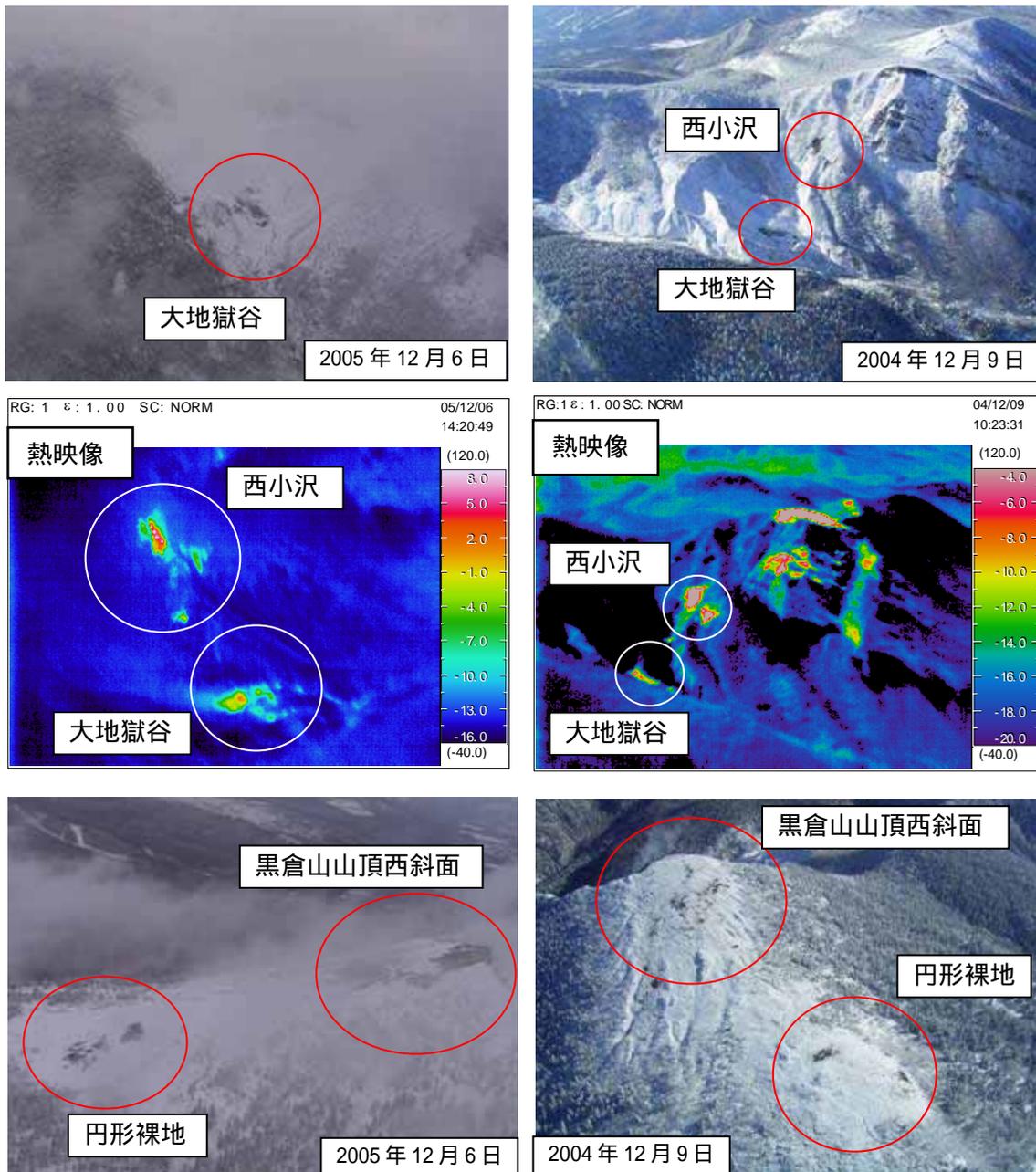
大地獄谷 - 主噴気孔からの噴気の高さは、雲と重なり観測できませんでした。目視による融雪域や赤外熱映像装置での観測結果からは、噴気地熱地帯に変化は見られませんでした。

西小沢 - 黒倉山山頂及び西小沢の噴気については雲の影響で観測できませんでした。赤外熱映像装置での観測結果からは、噴気地熱地帯に変化は見られませんでした。

黒倉山頂 - 黒倉山山頂から西側の稜線と南側の円形裸地では、地熱の影響による融雪域が観測されましたが、噴気地熱地帯に大きな変化は見られませんでした。

その他、黒倉山から姥倉山にかけての稜線沿いの融雪域など、前回（2004年12月）の観測と比較して、大きな変化や異常は見られませんでした。

赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。



左側：今回の画像(2005年12月6日)

右側：前回の画像(2004年12月9日)

図3 岩手山の機上観測結果（陸上自衛隊東北方面總監部の協力による）

東北大学松川観測点で $S - P < 2$ 秒以下の地震回数

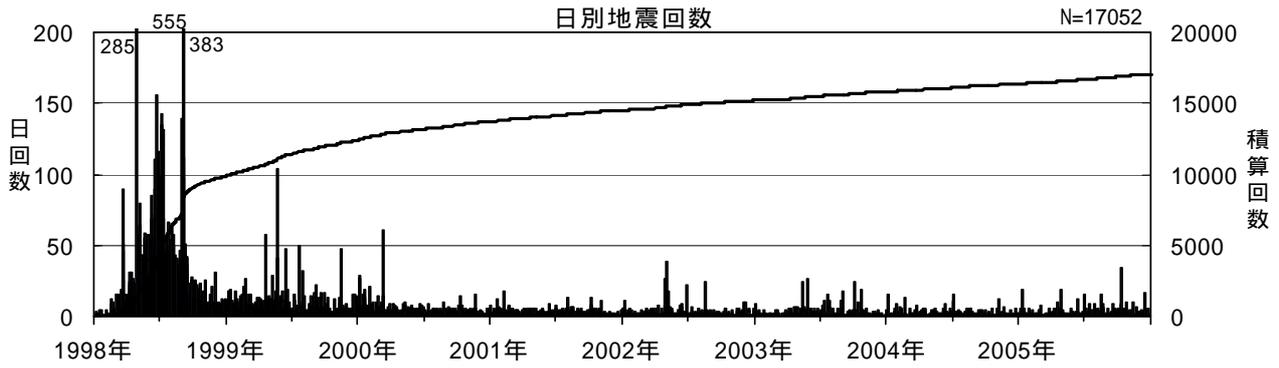
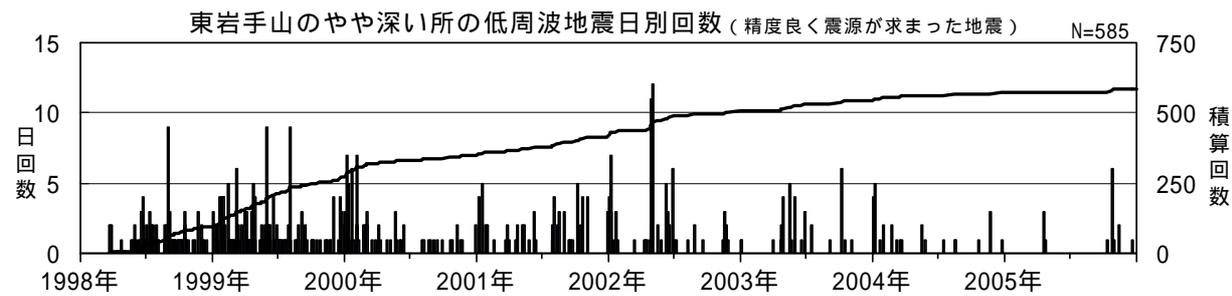
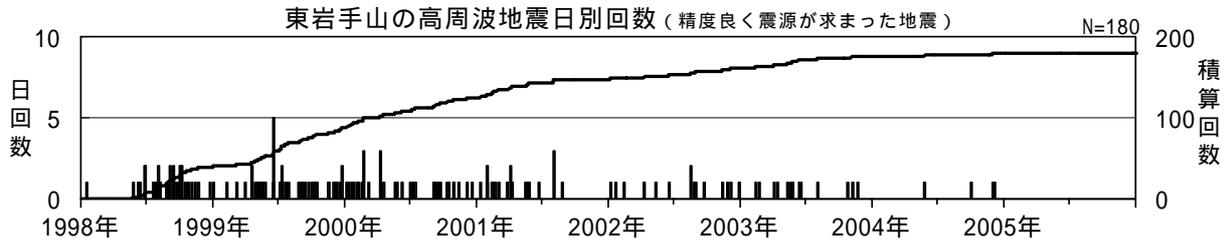


図4 岩手山の日別地震回数
(1998年1月～2005年12月)

東岩手山の地震(図1青枠)



西岩手山の地震(図1赤枠)

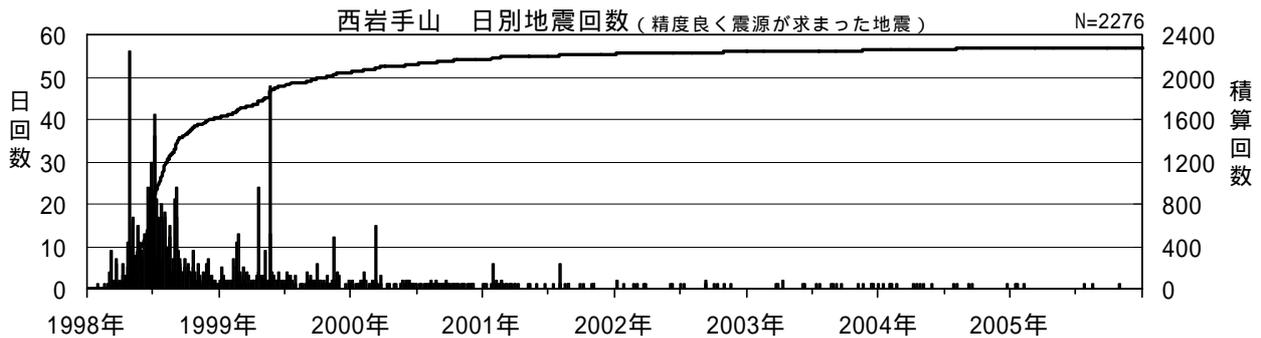


図5 東岩手山、西岩手山の日別地震回数
(1998年1月～2005年12月)

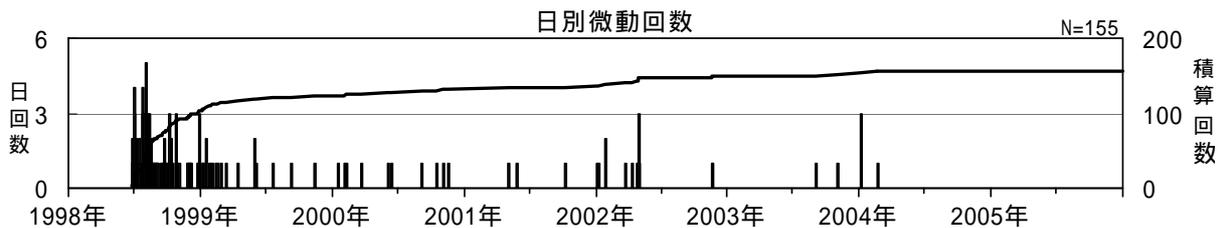


図6 岩手山の日別微動回数
(1998年1月～2005年12月)